

認知症とは、どんな病気？

日本における認知症の人の人数は平成 24 年で約 462 万人、65 歳以上高齢者の約 7 人に 1 人と推計されています。正常と認知症の中間の状態の軽度認知障害と推計される約 400 万人と合わせると、65 歳以上高齢者の約 4 人に 1 人が認知症の人またはその予備軍とも言われています。

認知症は、加齢によるもの忘れがひどくなった状態や心の病気と混同されがちですが、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすることで、生活する上で支障が、おおよそ 6 か月以上継続している状態を指します。認知症は、誰にでもおこりうる「脳の病気」です。

認知症の記憶障害と加齢によるもの忘れの違い

認知症の記憶障害	加齢によるもの忘れ
経験したこと全体を忘れている	経験したことが部分的に思い出せない
目の前の人や誰なのか分からない	目の前の人や名前が思い出せない
置き忘れ・紛失が頻繁になる	物の置き場所を思い出せないことがある
食べたことじたいを忘れている	何を食べたか思い出せない
約束したことじたいを忘れている	約束をすっかり忘れてしまった
数分前の記憶が残らない	物覚えが悪くなったように感じる
月や季節を間違えることがある	曜日や日付を間違えることがある